

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	3 (3) 高等学校
				領域名	論理的思考
研究課題	学校全体で取り組む課題 (3) 社会の中で活用される論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育成するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童・生徒数)	熊本県立熊本西高等学校 (1038 人)				
所在地 (電話番号)	熊本県熊本市西区城山大塘 5 丁目 5 - 1 5 (096-329-3711)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://sh.higo.ed.jp/kumanishi/				
研究のキーワード	①協働学習 ②相互授業見学 ③定期考査問題				
研究結果のポイント	○協働学習や話し合う場面が増えたことで生徒の学習への姿勢に変化がみられるようになった。 ○各教科の特性に応じた活動や少人数グループによる相互授業見学を通して，職員個々の授業改善への意識が高まり，授業の質の変化や授業力向上につながった。 ○論理的思考力をみる問題の研究の動機付けができた。				

1 研究主題等

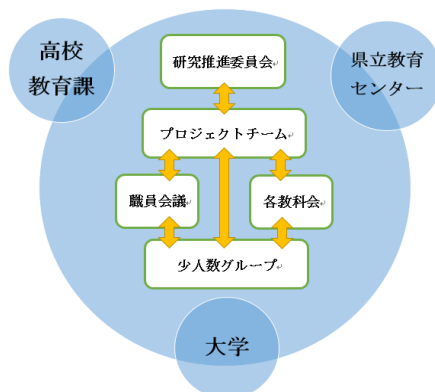
(1) 研究主題

論理的思考力と表現力を育てるチーム西高としての組織的な取組に関する研究
 ～主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた指導と評価の工夫改善～

(2) 研究主題設定の理由

本校生は，概しておとなしく，まじめだが，学習に関しては受け身的な生徒が多く，基礎的・基本的な知識・技能の定着や自らが主体的に学ぼうとする姿勢や積極性に課題がある。また，教師側には，ICTの活用やグループ学習等を取り入れた授業などの工夫改善への取組が一部にとどまり，系統的・組織的取組とまでは至っていない現状がある。そこで，論理的思考力と表現力を育成するための授業改善を学校全体として推進するとともに，大学入試改革や新学習指導要領に対応するための主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた指導方法を工夫し，その学習評価方法等の研究を行うために，本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



- 高校教育課・熊本大学・熊本県立教育センター（指導・助言）
- 研究推進委員会
 （本研究の統括とプロジェクトチーム・職員会議・各教科への助言）
 [構成員：校長，副校長，教頭，主幹教諭，指導教諭，教務主任，進路指導主事，研究担当主査]
- プロジェクトチーム
 （研究内容の検討及び計画の立案）
 [構成員：各教科の研究担当者]
- 職員会議・各教科会・少人数グループ
 （各教科の指導計画立案・実施・評価）
 [構成員：授業担当者]

(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<p>4月 ・研究推進委員会及びプロジェクトチームの立ち上げ</p> <p>5月 ・本校の生徒に身に付けさせたい論理的思考力の共通理解 ・学びのUD化についての職員研修 ・本校版学びのUD化の共通理解と実践</p> <p>6月 ・外部講師によるAL型授業についての職員研修①</p> <p>7月 ・先進校視察などの情報収集, 各教科の取組の立案 ・国研意識調査</p> <p>9月 ・情報の共有と少人数グループによる授業研究および実践 ・定期考査等における論理的思考力や表現力をみる学習評価問題の研究</p> <p>10月 ・AL型授業についての職員研修②及び少人数グループによる授業研究</p> <p>11月 ・少人数グループによる相互授業見学の実施 ・教育課程研究指定校事業に伴う研究協議会</p> <p>12月 ・国研意識調査</p> <p>1月 ・定期考査等における論理的思考力や表現力をみる学習評価問題と論理的思考力の伸長をみる評価方法についての研究</p>
平成30年度	<p>4月 ・国研意識調査</p> <p>5月 ・少人数グループによる授業研究および実践 ・定期考査における論理的思考力をみる学習評価問題の出題と研究</p> <p>6月 ・少人数グループによる相互授業見学の実施</p> <p>7月 ・学習評価についての職員研修①及び② ・先進校視察などの情報収集 ・国研意識調査</p> <p>9月 ・情報の共有と少人数グループによる授業改善及び実践</p> <p>10月 ・定期考査等における論理的思考力をみる学習評価問題の出題と評価の研究</p> <p>11月 ・少人数グループによる相互授業見学の実施 ・教育課程研究指定校事業に伴う研究協議会</p> <p>12月 ・国研意識調査</p> <p>1月 ・二年間の取組の総括</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 全職員で目指す論理的思考力についての共通理解
- イ 各教科及び少人数グループによる授業改善の取組
 - ① 各教科の特性に応じた活動から立てた仮説に基づいた実践
 - ② 論理的な思考についての活動で重視する点を念頭に置いた少人数グループ内の相互授業見学の実施
 - ③ 教科横断的な視点からの授業の取組
- ウ 論理的思考力をみる問題の定期考査への出題による授業改善の取組
- エ 論理的思考力や表現力が育成されているかを測る学習評価方法の研究

(2) 具体的な研究活動

ア 全職員で目指す論理的思考力についての共通理解

目指す論理的思考力を、論理的思考に関する意識調査にあった「自分の考えを筋道立てて説明できる力」の育成とし、全職員の共通理解を図った。また、授業改善の取組の一つの手立てとして、外部講師を招いてA L型授業や振り返り会についての職員研修を実施した。

イ 各教科及び少人数グループによる授業改善の取組

① 各教科の特性に応じた活動から立てた仮説に基づいた実践（以下、一部抜粋）

- ・新聞記事の「今日の一読」の学習を深化させよう！
- ・歴史的な問いかけを掲示し、資料等を活用しながら協働学習を通して、根拠を明確にした説明や考察をさせる。
- ・対話的な活動を通し、地図・資料・統計の分析から地域社会を理解する地理的思考力を深める。K P法などを利用しながら、様々な協働学習を通して新たな「問い」により思考を深めていく。
- ・ジグソー法等を利用した協働学習を行うなど、生徒間で説明し合う場面を設定する。
- ・A L形式での演習を行うとともに、班で行う実験の考察を文章で表現し、発表する。
- ・ペアワーク等による「自分の考え」を英語で表現する言語活動を日常的に行う。
- ・「賛成」と「反対」双方の立場から意見を述べるスモールディベートを行う。
- ・「意見」「理由」「例示」「まとめ」というフォーマットを提示したアウトプット活動を行う。
- ・ワークシート等を活用し、グループ学習やプレゼンテーションを通して、意見交換や筋道立てた発表を促す。

② 論理的な思考についての活動で重視する点を念頭に置いた少人数グループ内の相互授業見学の実施

論理的な思考力を育成するためにつけたい資質・能力を各教科で改めて確認し、教科を中心とした少人数グループを編成し、論理的な思考についての活動で重視する点を念頭に置いた授業の相互見学を全職員で実施した。

③ 教科横断的な視点からの授業の取組

表現する力を育成するために、短い文章形式のシートを利用した授業内容の振り返りを取り入れた。また、教科横断的な視点からの授業や学習計画の見直しを行った。

ウ 論理的思考力をみる問題の定期考査への出題による授業改善の取組

学びを深めるための発問、ペアやグループでの協働学習などの授業や課題内容を工夫し、それを活用した論理的思考力をみる問題を定期考査に出題した。

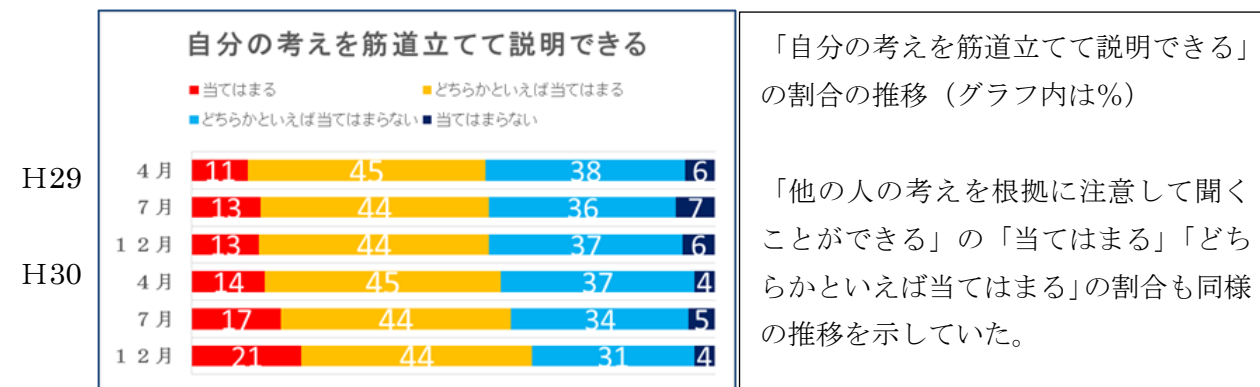
<定期考査への出題例>

- 日常生活や最近の話題などに関連付けた問題
- 場面設定により自分への問いが立つ問題
- 理由をつけて価値判断をする問題

エ 論理的思考力や表現力が育成されているかを測る学習評価方法の研究

論理的な思考力の育成を測る学習評価方法について、外部講師を招いた職員研修を行った。評価方法としては、客観テスト以外に自由記述式やパフォーマンス課題のルーブリック等が考えられる。その基本的な考え方を学ぶとともに、授業等で生徒と共有できるように、各教科のつけたい資質・能力をもとにした学習評価基準を作成した。

(3) PDCAサイクルへの取組について



3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 論理的思考力をみる問題の蓄積や授業改善への意識向上については、一定の成果が見られた。
- 授業の振り返りをする事によって、生徒がどこでつまづいているのかが把握できるようになった。特に核心に迫るようなコメントを書く生徒が増えており、生徒自身も以前より書けるようになったことが嬉しいという意見が増えている。
- 生徒が論理的に説明できる基盤づくりを重視した授業を組み立てるようになり、伝えたいことが明確になるとともに、一方通行でない学びをつくることができた。説明する活動を通して、間違えてもよいかから言葉をつないで表現しようと意識している様子が多くみられるようになり、暗記科目と捉えがちな固定観念を多少払拭することができている。
- 以前の授業において是非を問うのみの単調な授業になりかねなかったが、協働学習を通して探究していく活動の場面が増えた。
- 協働学習を取り入れた授業についてのアンケートでは、92%の生徒が満足と回答した。
- 他の生徒の意見を聞くことで、批判的思考と異なる視点の意見に理解を示す態度が高まった。
- 発表する場をつくることで、レポートの質が向上した。
- 教科横断的な視点からの授業を通して「教科が違って学んだことは生かせることが分かった」などの意見も多く、多様な視点から関連づけて学ぶ意識付けになった。
- 生徒の理解度に合わせた課題設定の重要性を改めて感じるとともに、場面に応じた効果的な「問い」を立てるための教材研究にまだ多くの時間を要する。
- 授業での協働学習や取組の時間配分や授業進度の確保のための工夫がまだ必要である。
- 文章読解力や文章表現力を養うための取組を今後も行っていく必要があると感じている。
- 教科によっては、学習成果物のポートフォリオ評価等を段階的に取り入れ、生徒自身が自己変容を実感できる評価方法を今後も検討していく必要がある。

4 今後の取組

論理的思考力をみる問題の質の向上や授業改善の取組については、引き続き進めていきたい。また、作成した学習評価基準等や次期学習指導要領の目標を意識した授業と評価の一体化を図れる取組や工夫を、今後も継続していきたい。

5 研究協議会の中で協議したいこと

- 生徒の論理的な思考力の伸長を測る様々な評価方法について、どのような方法があり、どのように実践されているかを知りたい。